

# さわごい

สมาคมมิตรภาพ ไทย. ประเทศไทย

2010年5月  
22号

発行

埼玉・タイ王国友好協会事務局  
〒350-1192 川越市田町32-12  
武州ガス棟内 ☎049-247-5428

埼玉・タイ王国友好協会会報

URL: <http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

# 埼玉王

## 特集 足跡

タイ王国は古くから日本と交流があり、近年特に埼玉県内の企業、工場が数多く進出し、経済活動を行っています。当友好協会はそうした状況を背景に、平成十一年三月、民間レベルでの友好親善を更に深めていこうと発足されました。その活動の柱となっているのが教育支援で、初年度から、そのための予算が組まれました。

そして設立より五年、念願の教育関連施設の建設が実現。以来五つの教育関連施設を建設、寄贈してきました。

本号ではこれまでの活動を振り返ります。



▶第1回・メーホンソン県のバン・クッド・サムシブ校に2棟の寄宿舍。高地にあるため、外気は3～4℃にはなると思われるが、以前の寄宿舍の壁は竹製ですき間だらけであった。

▶第2回・メーホンソン県のバン・マイ・サ・ピー校にオープンスクール。地元の人達の集まりなどにも使われている。



▶第3回・メーホンソン県のバン・ナイ・ソイ校に図書館。周辺には図書館はなく、子供用の本も寄贈した。



▶第5回・チェンマイ県のバン・パン・ハウエイター校に図書館。チェンマイ市から約50キロの山岳地帯にあり、高床式の建物となった。



▶第4回・チェンマイ県アジアホープ孤児院に乳児用寄宿舍。引渡し式時にすでに7人が入所していた。



# 子ども達の笑顔を励みに

会長 原宏

平成十一年三月、今は亡き土屋名誉会長の「民間レベルで草の根外交を深めよう」という強い意向で当友好協会が設立され、氏の多大なご指導の下で活動を続けてまいりました。

中でも設立五年目から実施した教育関連施設の寄贈では、それに合せて友好親善訪問を実施し、会員の皆さんと共に、現地でも設立五年目から実施した教育関連施設の寄贈では、それに合せて友好親善訪問を実施して感動を体験して感動を

共にしてまいりました。こうした活動は、ともすればお金を渡すだけの行為となりがちですが、当会では、本当に必要な場所に必要なる物と準備を重ね、全段階に関わって、この事業を実施してまいりました。これは役員の皆様のタイに対する熱い気持ちとそれを支えてくださる会員の皆様のお力の賜物と感謝致しております。

また、親善訪問の際に現地でお会いした子ども達の目の輝きと笑顔も大きな励みとなり、私たちが活動の柱を教育支援に置いてきたことの正しさを実感してまいりました。今、役員会ではこれまでの活動を精査し、今後の活動についての議論を重ねております。会員の皆様にはより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



▲1999年3月、設立総会で挨拶する土屋名誉会長。



▲第5回総会でカシット・ピロム駐日タイ大使を囲む原会長等。



▲第10回総会で、当会の歩みを説明する吉田事務局長。

## タイ王国大使館と連携

歴代駐日大使の顔



スウィット・シマサクン氏  
2004・6～2009・11



カシット・ピロム氏  
2001・12～2004・6



サクティブ・グライラク氏  
～2001・11

## 特集

# 足跡をたどる

広く  
深く

つな  
がる

友好  
の輪

### ●ダルニー奨学金

設立時より続いている教育支援の一つで、年間一万円で一人の子供が中学校で勉強できるというものです。これまでに百名以上の子供たち（それぞれ三年間）を支援しました。ダルニーというのは、最初にこの支援を受けたタイ東北地方の子どもの名前です。



▲2002年11月来日した奨学生と対面する日本のドナー。



▲2004年1月、25才となったダルニーさんが来日し、西條副会長等が対面。

### ●協賛事業 タイフェスティバルと水かけまつり&ワールドフェスタ

当会の設立年と同じ1999年に始まり、毎年、代々木公園で行われているタイフェスティバル。当初、来場した会員に記念品を渡していたのも懐かしい思い出です。

さいたま新都心で行われる水かけまつり&ワールドフェスタは今年は9回目を迎えますが、第4回から協賛団体になっています。



▲毎年8月に開かれる水かけまつり&ワールドフェスタ。



▲事務局から記念品を受取る会員。

### ●思い出のトピックス



▲2000年10月、マヒドン王女が来日し、吉田町の龍勢を見学。



▲1999年10月、土屋埼玉県知事を表敬訪問した高橋校長に記念品を渡す。



▲2006年12月、原会長がディレクナポーン勳章を授与された。



▲2004年のスマトラ沖地震には会員より250万円の義捐金が集まった。

## 友好親善訪問

友好親善訪問は設立年度の2月に第1回が実施され、これまでに7回を数えています。第4回からは、教育施設の寄贈に合わせて行われ、子ども達や現地の人達と交流を深めてきました。そこでの参加者はタイ都市部との経済格差を実感し、驚きながらも、子ども達の生き生きとした表情とまっすぐな視線に心洗われ、逆に励まされてもきたように思えます。

また、参加者同士行動を共にすることで、会員相互の親睦はもとより、様々な情報を交換し合うという副産物も得ることもなっています。

3回  
2002年12月



▲バンコクにあるタイガールガイド連盟を視察。

1回  
2000年2月



▲原会長がロイヤルプロジェクトのパンダ農園を視察。



▲第1回の親善訪問には29名が参加。

2回  
2001年3月



▲チェンマイにあるランブーン新電元工業(株)を視察。



▲チェンマイ東方の山に桜並木があると聞いて、調査に出掛けた。

4回  
2005年2月



▲それまでの寄宿舍を見てびっくり。竣工式の翌日、寄贈した寄宿舍を見学。

5回  
2006年2月



▲オープンスクールの引渡し式を終えた参加者一行。



▲歓迎会で民族舞踊に挑戦する参加者。

6回  
2007年2月



▲毎回のタイの観光も楽しみの一つ。寄贈した図書館の竣工式に集まった子ども達。

7回  
2008年2月



▲引渡し式時にすでに入所していた子ども達。アジアホープ孤児院の子ども達におみやげを渡す参加者の皆さん。

## タイにアクセス

### 会員 VOICE

### 混乱の中でも続けたい 民間交流

川越市 住谷治男 さん



この会には、一昨年に亡くなられた土屋先生のお誘いで入会しました。4年前、第5回の親善訪問で初めてタイを訪れたのですが、一番驚いたことは、同じ仏教国なのに日本と比べ、寺院が非常に煌びやかだったことでした。また、この会が寄贈した教室が、子供達だけでなく地域の人達にとって公民館のような役割をも果たす、と聞いたことが深く印象に残りました。

今タイが政治的に混乱していてとても心配ですが、政権交代や変化など混乱の中でも、民間レベルの交流は、変わらず続けていくことがとても大事だろうと私は思います。親善訪問で初めてタイ料理に出会いましたが、息子や娘は大好きで、タイ料理のレストランに良く出掛けています。私も機会を見つけて是非一緒に行きたいと思っています。

### タイ投資委員会公使 が表敬訪問

▶武州ガス(株)本社の前で。



▲活発な意見が交わされた。

4月26日、タイ投資委員会公使のチョークデー・ゲーウセン氏が、武州ガス(株)本社を訪れ、原会長、西條副会長らとタイにおける日本企業の投資活動や政治状況等について意見交換をしました。その中で同氏は、当会が混乱の中でも変わらず交流を続けていることに感謝を表明していました。

## 30万人目の

## 「ダルニー」ちゃん来日

NGO「民際センター」が奨学金を送った海外の奨学生が延べ30万人に達しました。これを記念する「30万人記念のつどい」が昨年10月5日、都内で開かれ、来日した奨学生とそのドナーである女優の向井亜紀さんが対面しました。



他にも立松和平氏の講演、向井さんを交えたパネルディスカッションなどがあり、参加者は教育支援が果たす役割、重要性について認識を新たにしていました。

## 第12回 総会開催

下記の要領で総会を開催します。  
ぜひご出席ください。

日時 6月21日(月)  
15:30~16:50 総会・講演会  
17:00~19:00 懇親会

場所 川越東武ホテル  
川越市脇田町29-1 ☎049-225-0111

※会員の皆様には別途、ご案内を送付致します。



◀第11回懇親会風景

## 行ってみよう タイ・フェスティバル2010

5月15日(土)16日(日)  
10:00~20:00 代々木公園

日本にいながら、タイを感じ、知り、味わう1日はいかが？今年の特別展ブースでは、「王室プロジェクトと国民の恩恵」がテーマ。ミニステージでは、タイ南部の伝統舞踊「ノーラー」、東北部伝統音楽の「イーサンの調べ」を披露。お腹が満足したら、ぜひ覗いてみてください。

タイ・フェスティバル公式HP <http://www.thaifestival.jp>

### 会員募集

年会費

法人会員：二万円

個人会員：二千元

お問合せは

☎049・247・5428

(武州ガス(株)内)

### 編集後記

●昨年十月の「30万人記念のつどい」で拝見した立松和平氏の訃報には本当に驚きました。残念です。

●タイの混乱が早く収まって欲しい。「微笑みの国タイが」と報道されるたびに胸が痛い。